

岐阜県の文化振興に係る懇談会（第3回）

【日 時】 平成 19 年 3 月 23 日（金） 14：00 ～ 16：00

【場 所】 県民ふれあい会館会議室

【発言要旨】

～ 「岐阜県文化振興指針（案）」の説明の後、各委員からご意見をいただく～

人材育成について

・参加して、育てて、創って、そしてその人たちがまた参加へと、うまく回していく。外へ出て活躍してもらい、もう一度地元へ貢献してもらおうというトータルな仕組みを考えないとダメなのではないか。

・人材育成は大事で、小さいころからどんどん増やすべきだと思うが、育てっぱなしは良くない。育てた人材を「売り出すこと」。ちゃんと面倒を見れるという環境がある程度想定して育成してほしい。育てた後の部分が、ビジネスモデルとまでは言わないが、ちょっとぼやけているという感じがする。文化で生活が成り立つかどうかということは、夢が持てるか持てないかという点ではすごい重要なこと。

・いつもレベルの高いものはめざすべきであって、そうしていくと必ず裾野は広がる。そう信じて活動というのはやっていくべきではないか。

・知らないで参加するという気にもならないので、一番早い手だてとして、子どもに目を向け、本物を見せ、参加しやすい状況に置くということが重要と思う。

・ディスカウントすれば、たくさん人がくるだろうという話はあまりに安直すぎる。

・プロの人の演奏会を無料でというのはすごい矛盾を感じる。プロの芸術家を育てるのは私たち県民であり、「何もすることができない私たちだから、せめてチケットを買うくらいの支援はしましょうよ」という姿勢がほしいなと思っています。そうすると演奏者側と観客側のもう少し、いい形が生まれると思う。

将来像について

・めざす将来像というのが、よくわからない。抽象度の高い言語を使わないと定義できないと思うが、指針のめざすべき県民のライフスタイルというようなものを何人か実際にシミュレーションして、こういう生活する人たちを増やしたいんだということを書いていただくと、より共感しやすいのかなという気がした。

文化と産業について

・「文化×産業」という視点に注力された方がいい。指針案の中で「美濃和紙あかり

「アート展」だとか「アート×ものづくり＝ビジネス」というみたいなのところを取りあげている割には、「文化×産業」の記述が浅い気がする。

・「文化と産業」という視点は、おそらく文化の指針の中でちょっと意識した記載がないと、文化の指針、産業の指針それぞれの中でスッポリと抜け落ちてしまう可能性がある。

在住外国人について

・在住外国人の方のことが書いてあるが、彼らにしてみると、日本の文化を見てみたいというところまでで、仕事で日本へ来ている方が多いのだから、実際、活動に参加してもらうというのは無理があるのではないか。

・在住外国人については、大人にではなく、子どもたちにターゲットを絞って手だてを考える。子どもは、いいものを早く覚えるし、参加してもらいやすい。

・在日外国人の話の中に、多文化共生というキーワードがないように思われる。「日本文化をいかに在日外国人に教えるか」、「われわれがやっている取組みをどう伝えるか」ということに終止するのではなく、外国人固有の文化を尊重しようという姿勢を、かなり強く打ち出すべきではないか。

織部賞について

・織部賞は、日々の地道な創造活動に日の目が当たるような賞であるべきで、何か権威付けというところでもしあったとすると、古田織部も泣いているのかなという思いもしないではない。織部賞というものは岐阜県のブランドづくりには大事な賞だと思うので、ここに書いてあるように実行していただければいい。

・織部賞以上に「オリベ創想塾」などオリベプロジェクト全体を、文化指針として位置付けることが重要なのではないか。

行政側の態勢について

・クリエイターの方と行政とのコミュニケーションを、どう埋めるかというところが、まさに指針の一つのミソみたいなのところ。できれば県の人を中心となってマネジメント（コーディネート）をきちっとやってほしいが、行政が直営でやれないのであれば、アウトソーシングに出したり、そういうことをやっていけるアート NPO を育てていくことが必要ではないか。

・県庁に文化に明るい人がいて、窓口になってもらえたら大きな変化をもたらすのではないか。例えば今回の策定チームの6人が、一人は絵画、一人は音楽などと担当を決めて、県内で行われる行事を全部見てまわってほしい。

施設運営について

・県民ふれあい会館をはじめとする指定管理者が、それぞれの施設の特徴を理解して

独自の運営をしていくというのは、なかなか厳しいんじゃないかと思う。

・文化施設を無料化するよりは、入場するためのバウチャークーポンなどというものを制度としてつくったらどうか。例えば県民には年間2千円分の文化施設に入れる無料券を配り、行きたいときに行けるという文化施設自体も取捨選択というのが非常にいいのかなと思う。

その他

・いろいろな地元の伝統文化のことが書いてあるが、集落の力が落ちていく中で、集落の力をどのように支えていくかというところに踏み込んでほしい。

・何をやるかより、どうやって皆に知ってもらうかを考える方が大事だと思う。

・岐阜県が文化振興をより真剣にやっているのだということを伝えていくメッセージとして、県のホームページのトップページだとか県の広報誌「くらしと県政」などの刊行物のフェイスのデザインを月替わりで地域の芸術家の方々に担っていただくだとか、あるいは県庁内でリラックスの体操の音楽を2ヵ月に1回、例えば、ミュージシャンにつくっていただいて遊んでみるとか。メッセージとしては、非常に伝えやすいのかなと思った。

・あくまで希望であるが、いわゆるサブカルチャーというものに対する記述というものがあればという思いがある。